

生徒アンケートを中心とした学校改善のための学校評価システムの開発

1. 事業の実施報告

(1) 実践研究のねらい

大分舞鶴高等学校を指定校とし、「生徒アンケートを中心とした学校改善のための学校評価システムの開発」に取り組む。

① 継続的・効果的な評価の研究開発

○学校評価研究プロジェクトチームの設置（評価PT）

○学校評価についての教職員研修

② 教育成果を捉える生徒アンケートとその活用

(2) 実践研究の実施状況

① 評価PTの設置と全職員での課題の共有化

本年度の重点目標を踏まえ、学校生活アンケート及び教職員の自己評価等により導き出された現在の課題について解決方策を作成する。

・ 10月 第1回 評価PT会議（発足・今後の日程）

・ 11月 第1回 学校評価に関わる拡大学年会議（現状分析・改善策）

第2回 評価PT会議（取りまとめ）

職員会議（情報共有）

・ 2月 第3回 評価PT会議（2回目のアンケート分析・資料作成）

・ 3月 第2回 拡大学年会議（指導効果検証・次年度への改善策）

第4回評価PT会議（とりまとめ・次年度取組内容策定）

職員会議（次年度の取組に関わる情報共有）

② 学校生活アンケートの実施

ベネッセコーポレーションと連携し「学校生活アンケート」を下記により実施した。

・ 6月 第1回 アンケート項目の考察・決定

・ 7月 第1回 アンケート実施45分

・ 9月 第1回 アンケート分析報告会（ベネッセコーポレーションより講師）

先進校訪問

・ 11月 第2回 アンケート項目の考察・決定

・ 12月 第2回 アンケート実施45分

・ 先進校訪問

・ 2月 第2回 アンケート分析報告会（ベネッセコーポレーションより講師）

③ 教職員研修

・ 1月 スキルアップ研修（コーチング）

④ 報告書作成

2. 実践研究の成果

① 2回の分析報告会の後、それぞれの回において評価PT主導で拡大学年会議を行い、

再度のデータ分析、改善策の検討をした。更に、最終的な目標は学年主導ではなく、学校全体の問題とすることであるので、職員会議にて学年の壁を越えた情報共有を図った。

- ② 学校評価は、学校の過去の取組を踏まえ、さらに改善を加えるという観点から、よい点（強み）を大切にしながら、学校運営のマンネリ化・硬直化を防ぎ、着実に学校が前進していくためのものであるということが確認できた。
- ③ 学校の課題について、職員個々人が抱えてきた「何となく」という曖昧なものではなく、客観的なデータに基づき、教職員全員で考え、焦点化できた。
- ④ 課題を踏まえた上での研修を行う中で、個々の教職員の中に授業や面談等日々の取組に関する改善意識が生まれた。

### 3. 今後の取組予定

#### <次年度の取組>

今回の研究「生徒アンケートを中心とした学校改善のための学校評価システムの開発」において、アンケートの実施及び事後の組織だった検証により、本校生徒の課題を発見し、職員間で共通認識を持つという当初の目的はある程度達成された。次年度は、評価PTの活動を更に活性化し、生徒の課題がより浮き彫りになり、実際の指導へ速やかに移行できるアンケートの内容及び分析方法の更なる深化を図り、加えて各分掌間の連携強化とともに、保護者・地域への情報提供方法模索という、外部評価を含めた広がりを持たせる取組、研究を進めたいと考えている。

#### ○「学校評価・情報提供の充実・改善等に向けた取組」報告書（大分県立大分舞鶴高等学校作成）

##### I) レポート

生徒アンケートを中心とした学校改善のための学校評価システムの開発

##### II) 学校生活アンケート

- ・学校生活アンケート
- ・分析資料

##### III) MTDプラン ～舞鶴魂を持つ教員育成システム～

###### ○「授業力向上」の取組

- ①相互授業参観
- ②生徒授業アンケート
- ③研究授業

###### ○「専門性向上」の取組

- ④大学入試問題研究
- ⑤予備校等研修
- ⑥スキルアップ研修

###### ○「意欲の喚起」に関する取組

- ⑦先進校視察
- ⑧研修環流報告会